

市民公開講座 「有明海・八代海を科学する」および体験実習

研究成果の地域への還元および干潟浅海域に関する環境教育の充実を目的として、一般市民を対象とし公開講座「有明海・八代海を科学する」および体験実習が熊本県水産研究センターとの共催で実施されました。概要は、沿岸域センターのHPに掲載されています。なお、一部講演の資料は、熊本大学附属図書館の学術リポジトリにも登録されています。

講義

10月7日：「音で探る有明海の過去、現在、そして未来」
秋元和實(沿岸域センター)



パレアでの講義



シカメガキの養殖試験
(熊本県水産研究センター)

10月14日：「熊本県における藻場の現状と藻場が果たす役割」 荒木 希世(熊本県水産研究センター)

10月21日：「有明・八代海の環境特性と再生への技術開発」 滝川 清(沿岸域センター)

10月28日：「カイアシ類の生態学」
嶋永 元裕(沿岸域センター)

11月 4日：「肥後ハマグリ資源管理とブランド化」
逸見 泰久(沿岸域センター)

11月11日：「養殖ノリの色落ちと環境ストレス応答」
瀧尾 進(沿岸域センター)

体験実習

10月20日：
熊本県水産研究センター・
熊本大学合津マリンステーションでの見学、実習船での調査およびプランクトンの顕微鏡観察



プランクトン採集
(合津マリンステーション)

熊本大学研究拠点 キックオフシンポジウムが開催されました



Ismail Turkan教授



Jae-Sang Hong教授

2009年12月5日(土)午後、チサンホテル熊本において、熊本大学研究拠点キックオフシンポジウム「有明海・八代海の環境と再生に向けて—が、国際シンポジウムとして開催されました。拠点研究B「閉鎖性沿岸海域における環境と防災、豊かな社会環境創生のための先端科学研究・教育の拠点形成」で実施されている研究内容を、市民に聞いていただけるように市中のホテルで開催されました。

このため、約70名の参加者の多くが一般市民でした。谷口功熊本大学学長による開会の挨拶の後、拠点リーダーの滝川清教授(沿岸域環境科学教育研究センター)が研究拠点の目的を、増田龍哉特任助教(熊本大学大学院先端機構)が研究内容を紹介しました。その後、招待研究者である Jae-Sang Hong教授



滝川 清教授



増田 龍哉助教

(Department of Oceanography, Inha University, Korea)が「Korean Tidal Flat: environmental characteristics, biodiversity, threats and conservation needs.」を、Ismail Turkan教授(Department of Biology, Ege University, Turkey)が「Human Impact on Salt Lake (Turkey) and its Biodiversity」を講演しました。逸見泰久教授および滝尾進教授が、それぞれの講演の発表および質問を適時翻訳されたため、会場の一般市民から活発な質問や意見が出されました(学長は英語で直接質疑応答していました)。

シンポジウムの要旨は、沿岸域センターのHP(<http://engan.kumamoto-u.ac.jp/index.html>)に掲載されています。